

2023年度 ボランティア活動 事業報告書

2023年4月1日～2024年3月31日

ライフ ホスピタリティ マネジメント サービス
Life hospitality management service

1. 活動概要

コロナの感染拡大の制限と緩和が解かれ 従来の性的少数者方々へ居場所の定着 当事者と非当事者ともに関わり持てる場所の固定を主に行った 大阪市ボランティア活動振興基金助成金受給を取りやめ 参加者に支援寄付金を募り協力を得て 活動継続を周知する方法に切替え 活動をスマートに原点に立ち返る活動を心掛けた 性的少数者当事者との意見交流会は毎月毎に 住吉区民センターを拠点として梅田会場と天王寺会場をローテーションとし 性別違和当事者による実体験セミナー学校問題のみとし 学生をターゲットにリアルな学校生活を取上げ夏期休暇の8月に開催した あらゆる当事者に登壇して頂く講演会を今年度から取止めし 性別移行中の方をターゲットに QOL 向上として 所作立ち振舞いレッスンを2月に開催 ボイストレーニングレッスンは講師が遠方の為 継続困難による中止となった月に1回1対1で個別相談が出来る空間作りオンラインでの実施が出来ない状態であった

昨年度まではコロナ感染拡大の為 面と向かい直接話しが出来る制限や制約があった為実施出来なかったが 今年度は近い距離で従来の会場規定定員募集を掛け お互いの考え方によるミスマッチの溝を埋め 非当事者と当事者が性的少数者と関わりを持った事が無い事無意識に傷つけ 傷つけられている事を知って頂き お互いに正しく知る機会 時間を持って頂く事を目指している

昨年度に引き続き 全国遠征意見交流会を取りやめ コロナ感染拡大前の活動スタイルを取り戻す為 大阪を中心にリアル会場で意見交流会やセミナーQOL 向上イベントを実施した

2. 活動成果

コロナの感染拡大の制限が完全に撤廃され ソーシャルディスタンス確保や検温が任意 何よりイベント参加者の連絡先把握が撤廃になり 開催前の段取り 突発的な参加者増加対応を行わなくなった結果 イベント準備の時間短縮になりスムーズな開催が出来た 過去に感染者が増加した時 参加者人数制限調整を行った結果 何も知らない参加者が来場され 人員制限が有る事を伝えたがチラシに掲載していないと激怒 不快にされ威圧的に暴言を吐かれた経緯が 昨年度まで助成金を受給 感染者を出さない 感染拡大防止処置を講じ実施する事を必須条件だった 突然遠方からお越しになり来場者の受け入れが出来ず 今でも悔やまれる事も有り 助成金受給活動は来場者の柔軟な対応が出来ない 来場者が疎遠になる現状を体感し 活動原点である参加者へ協力を得て支援寄付金を募り グッズ購入による支援寄付金を頂く事で活動継続訴えた結果グッズ購入者が 1.5 割程度増えたと実感 感染拡大制限が完全撤廃され コロナ前の来場者人数を回復する為 全国意見交流会から 地元大阪へ活動初期の頃のスタイルに戻し 当団体の動脈 当事者方々との意見交流会を重点的に開催回数を増やすのではなく 交流する時間を大切に奥深く当事者と非当事者との丁寧な話し合い 双方考え方の違いを知り齟齬の溝を埋め 関わる事が出来る機会を重点的に直接当事者と当

事者以外の方が面と向かって生の声を聞く 声や表情仕草で双方見えない思想が身体で体感できる 居場所作りの固定と定着を目指していたが コロナ感染拡大前の参加人数に回復出来なかったものの参加人数が増加傾向にあった 2024年から急遽 性別違和を持っているトランスジェンダー対象向け意見交流会を開始 開催した理由は昨今 性的少数者であるトランスジェンダーへのバッシングと尋常もないヘイト状態である為である コロナ感染拡大中はSNS上で交流や意見交流や意見交換が盛んになった恩恵で 性的少数者であるトランスジェンダーの存在が認知されたと同時に 勝手な妄想や事実と異なり間違い湾曲した認識 海外の性犯罪者をSNS上で知り 日本でも性犯罪者が増えるのではないかと不安や恐怖の増大 真剣に性別違和感が有り悩まれている当事者の居場所が無くなった理由で リアル会場でトランスジェンダー対象向け意見交流会開催に至った 性別違和を持っている当事者セミナーについて 昨年度まで実施していた医療問題・生活問題・就労問題を取りやめ 学生をターゲットにし夏期休暇の研究課題論文など活用して頂く為 8月に開催したが 参加人数が常連の参加者3名のみで 学生や教職員の参加者が居なく告知の不備だった 性的少数者個別相談会は当団体の開催段取りのめどが立たず 本年度において全く開催出来なかった反省である 性別違和のトランスジェンダーQOL向上セミナーにおいて 女性声になるボイストレーニングレッスンは一旦中止中 新規イベントとして 昨年度に引き続き 大好評だった性別違和のトランスジェンダー対象 所作立ち振舞いレッスンを開催 今年度も前回同様満員での参加に至り 日常生活上女性として生きたい 馴染みたい強い思いが伝わって来た 今年度から新しい試みで トランスジェンダー対象 自撮りテクニック術レッスンを開催実施したが 応募者数が非常に少なく 参加者は2名だった 自己肯定感の低さを改善する為の自撮りで 自分自身の見栄えが良い角度で美しく綺麗に可愛く映る写真で 女性としての自己肯定感の向上に繋がる事が伝わらなかった現状が非常に残念であった

3. 活動実施事項

イベント名	実施場所	実施日	参加人数
性的少数者 (LGBTQ) 意見交流会	住吉区民センター	4/16	5人
		6/10	3人
		8/13	7人
		10/15	10人
		12/6	7人
性別違和を持っているトランスジェンダー対象 性同一性障害方々と意見交流会	住吉区民センター	2/10	12人
性的少数者 (LGBTQ) 意見交流会	クレオ大阪中央館	5/20	5人
		9/16	7人
		1/7	9人
性的少数者 (LGBTQ) 意見交流会	梅田総合生涯学習センター	7/16	4人
		11/18	4人
学校問題と対策セミナー	住吉区民センター	8/13	3人
所作立ち振舞いレッスン	Cs'walkingschool 大阪本町校	5/28	6人
自撮りテクニック術レッスン	住吉区民センター	11/5	2人
LGBTQ・性別違和個別相談会	Zoom 配信・会場にて	開催無し	0人

4. 活動写真



住吉区民センター
LGBTQ・性別違和意見交流会



クレオ大阪中央館
LGBTQ・性別違和意見交流会



梅田総合生涯学習センター
LGBTQ・性別違和意見交流会



住吉区民センター
学校問題と対策セミナー



住吉区民センター
性別違和を持っているトランスジェンダー対象 性同一性障害方々と意見交流会



Cs'walkingschool 大阪本町校
トランスジェンダー対象
所作立ち振舞い【瞬美レッスン】



住吉区民センター

トランスジェンダー対象

自撮りテクニック術レッスン

5. 活動課題

今年度から コロナの感染拡大の制限と緩和が解かれ コロナ前のイベントスタイルとして開催が出来るようになった反面 近年 性的少数者の交流スペースが各地で開催する団体が増加している現状も有り 特に梅田イベント会場の参加者が非常に少なくなっている コロナ感染前は参加者が 10 名前後だったが 現状 4 名参加者である 交通アクセスや利便性を考え梅田会場を選択したが 他の当事者団体は大阪の北部エリアに集中している 参加者が気軽に参加しやすい場所の選択肢が増えている現状が見受けられる 今後開催場所の拠点変更 当事者団体が集中していないエリアでの開催も検討しなければならない 活動資金について本年度から助成金受給を取りやめ 資金源を参加者へ支援寄付金を募り協力を得て 活動継続を周知する方法と団体代表者は性別違和当事者でも有り各団体（教育関係機関、福祉団体、行政、医療）などから講義の依頼を頂き講師料をボランティア活動資金に充当している 講義依頼による講師料の収入は前年度とほぼ変わらないが 支援寄付金収入は前年度よりも 1.5 割程度増えたが 減少に至るリスクもある 学校問題と対策セミナー参加人数が少数である事の改善 周知や広報の仕方を検討する必要がある QOL 向上セミナーについては所作立ち振舞いレッスンは大好評だった 良心的な講師料の団体へ依頼開催実施したが 助成金受給を取りやめたため 外部講師依頼の謝礼がネックであり民間ではなくボランティア活動団体の講師を模索する必要がある 自主開催の自撮りテクニック術レッスン開催において 当事者自身へ自己肯定感の向上になる事が伝わりきれず 性別違和特有である容姿の自信の無さが 参加に至らなかった経緯が十分にあり 周知や広報の仕方を検討する必要がある 性的少数者・性別違和当事者個別相談会開催予定が 団体の開催段取りのめどが立たず本年度において Zoom または 4 年振りのリアル会場で 開催出来なかったのも反省である 来年度は 団体スケジュール調整実施検討しなくてはならない

6. 次年度の取組

次年度も 助成金受給なしで 各団体（教育関係機関、福祉団体、行政、医療）などから講義依頼を頂き 講師料をボランティア活動資金に充当継続し 依頼団体を増やして行く為には今以上に周知を徹底する 参加者に支援寄付金を募り協力を得て 活動継続を周知し 次年度も更に参加者の協力が無いと活動継続が困難になる事を イベント開催前と開催後にもお願いをする 次年度も資金源に見合った活動を検討し 活動が途絶えない形での運営を目指し継続していく 引き続き性的少数者方々の居場所 2024年から急遽開始した性別違和を持っているトランスジェンダー対象向け意見交流会を軌道に乗せて SNS では言えない悩みや辛さは勿論の事 各施設利用においての当事者内外の意見を伺い 最適なヒントを得る情報共有の場 当事者が本来有るべき性別として自己表現が出来る場所として 活動原点を常に立ち返り アットホームな空間を再構築する 活動初期に求めてきたものの拘りを持ちつつ時代の変化に即した活動スタイルを更新し 性的少数者だけではなく 男女区別によるスペースによって弾かれた多様な家族や世帯 身障者世帯など受け皿の団体としても遂行していく

7. 活動の達成実現に向けての総括

2019年以前は 性的少数者にとって生きやすい社会へ実現しつつあったが 2020年頃から新型コロナ感染拡大によるリアルな活動の自粛や制限を受け 誰でもインターネットにて情報を入手する手段を獲得し 今までSNSを利用していない方々が気軽に利用するようになったと同時に 当団体設立時以前よりも生きづらい時代になってしまった 性的少数者である性別違和当事者は 真剣に悩み苦しんでいる情報も入って身近に感じてもらえる利点と同時に それ以上 性犯罪者のセンシティブ情報が目に入り衝撃を受ける方が一部居ている ネット上で正しい情報を見極め分別が出来れば良いのだが 海外の情報を悪意的利用し事実を湾曲したデマ情報を流し トランスジェンダーである性別違和当事者が あたかも性犯罪者のように印象操作した物を 何も知らない方々が信じ込み 不安や恐怖を煽る傾向が SNS上で非常に高くなっている 普段日常的に生活している性別違和当事者は 一般の方々に不快や不安にならないように見えない形で十分に気を遣い生活し 皆さんと同じ環境の下で迷惑を掛けずに生活をしている その現状を可視化し 性犯罪者は一部であり 一般男性女性トランスジェンダーなど全ての属性の一部居ている事と 嘘やデマを信じ込んでいる方々へ リアルな場所で面と向かい目と耳を使って 実際の経験体験談を伝える事を継続し続け 1人でも多く正しい事を知る機会を提供する 現代社会では男女区別する事で生活が困難な異性のお子さんがいらしゃる一人親世帯 身障者の異性介護を要する世帯など 従来の男女別で分けられているトイレ温泉脱衣更衣などとは別に 性別区別がないスペースの設置や増設確保など 性別違和当事者はもちろんの事 生活スタイルの多様性に即し 社会的マイノリティが住みよい社会へ目指し どんな人であれ生きやすい社会 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン活動を次年度から始動いたします